

## 三杯酒と安昭

## 中国青海省「その1」

庄司博史（じょうじひろし）民族社会研究部

そ

の土族の村で突然の大歓待をうけたのは一九九二年夏のことだった。前日の夕方、聞き取り調査から県政府の招待所にもとると、その前日、町の公園で会った青年がいる。何度か足をはこび、村中で歓迎の用意を待っているように来てくれた。

中国のほぼ中央、青海省の省都から四〇キロ、たらずの互助土族自治州で言語保持の調査をはじめ二年前であった。民族委員会や県政府



両手をそろえて振りながら安昭を踊る



三杯酒を飲む筆者。首の回りにかけているのがカタ

撮影：秦 永章

の役人ともいづくか村々をまわっていたが、質問にこたえる村人たちが同席する役人に気がねしているのをいつも感じていた。そこで機会をみて、町で会った青年にかれの村へ行ってみようともちかけたのだ。青年は徒歩で三〇分ほどのA村から来ていて、祖父にきいてみるとどの返事だった。たいしてあてにはしていないかつたので思いがけず招待されたことにおどろいた。

翌朝はやく調査助手の秦氏と村にむかった。道路から村までのあせ道のなかほどに、民族衣装で着飾った若者が数人待っている。娘が差し出したのは、カタ（歓迎の布）と小皿にのった三の盃。六〇度はある白酒を盃三杯飲みほさねば、事の進行がストップするという土族名物の三杯酒である。村の入り口には青年の祖父という老人が村人とともに待っていた。客人をむかえる歌をうたいながら三杯酒をさしだす。

それからが大変であった。同じことが門前、戸口、客間でくりかえされる。そればかりではない。家族や村びとも入れ替わり立ち替わりおとすれ、日本人というめずらしい人間に歌と酒をふるまってくれる。まさに酒攻めで、このときは酒が飲めてよかったと思つたことはない。その間も屋内はおろか庭や塀のむこうからも人びとの祝

線がそそぐ。

やがて食事と酒が一段落したころ、老人に手を引かれ外へ出る。広場では村人が輪になり歌をうたいながら踊る。安昭が始まっていた。婚礼や正月など祝いの事にはかせない踊りである。盆踊りのような踊りの輪にひきこまれ気がつくと四〇〇人の村民に取り囲まれていた。老人はどうやら長老格らしい。上気した顔で盛んに村民に指示をする。ささわれるまま家々をまわしてしまわす。もちろん酒つきである。

突如若者たちが公園へ行くという。花魁を聞かせたいらしい。青海で盛んな歌垣の歌である。情歌や恋歌などを独唱やかけあいで歌うが、決して村内や親のまえでは歌えないという。声自慢の青年が歌いはじめ、やがて公園中あちこちでかけ歌が聞こえ始める。

陽の落ちかけた村では、安昭の途中で酔いつぶれた老人がいつしか目を覚まし待ちわびていた。仕事からももらった共産党の幹部も加わり、若者が酒を買いに走りかえる。

夜更けは、翌日の出発をひかえ、泊まっていたといつと誘いをこわり、後ろ髪を引かれる思いで席をたつた。まっくらな夜道、村人が町までおくってくれる。何十杯の白酒をかさねたか記憶にはなかったが、頭のとへんまでアルコールで一杯だったとは確かだった。当初の目的の調査には程遠い結末になったが、中国でははじめて、打算のない心からの歓迎をうけたとがうれしく、すがすがしい気持ちで満ちていった。

しかし、この村についての話はここで終わらない。数年後おとすれたこの村では、もつとわたしをおとろかすことが待っていたのである。